

# ふるさと探訪

(29)

金河内町で昨年末、土中から六十数体もの「お地藏さん」が出土した。同町内などで進められている府道物部西舞鶴線の拡幅工事に伴い、山の斜面から出てき

た。今は地元の住民らの手で近くの薬師堂脇(わき)に祭られ、第二の人生

## 60数体ものお地藏さん

金河内町

を過している。

同町自治会の梅垣久夫会長(70)によると、見つかったのは字名が「エゲ」と呼ばれるあたりで、舞鶴方面に向かって左手の山の斜面。現在は工事が進み、出土した地点はコンクリー

地元の古老の話では、いままであったのか定かでないが、このあたりに昔、

「エゲ寺」や「エンゲイ寺」と呼ばれる寺院があったことから、そこで祭られていたのではないかと見られている。さらにこの府道は元來、大正末期から昭和初期のころに舞鶴までの軍用道路と

現在ここに祭られているのは七十九体となった。

梅垣会長は、「(出土した地藏尊は)約四百年前のもの可能性がある」と話す。その根拠は薬師堂の境内で以前、永禄八年(一五六五)と読める銘の入った宝篋印塔(ほうきょういんとう)の基礎が見つかった

## 府道拡幅で斜面から出土

### 住民の手で「日の当たる場所」に

トブロックで覆われて、以前の面影は失われている。工事前、ここは府道ぎりぎりまで山の斜面が続いており、登山のための細い山道があったという。拡幅工事のために斜面が削られるまでに、実は石で出来た数体の地藏尊が山道脇に顔を出していた。しかし、まさかその下の土中に多くの地藏尊が眠っているとはい

掘り出された地藏尊はその後、地元住民が泥を洗い流し、近くの薬師堂脇に運んだ。ここには昔から「六地藏」と呼ばれる六体の地藏尊があり、今はそれらとともに安置されている。すべての地藏尊を合わせると

宝篋印塔は当時の在地領主(豪族)の墓石だと思われるが、同じ境内に祭られていた六地藏も年代のもの可能性を持っている。だとすれば、近くに埋もれていた多くの地藏尊との関連も考えられる。

出土した地藏尊の保存状態はまちまち。柔和な表情をした顔まではっきり判別

できるものもあれば、体の輪郭だけが分かるもの、さらには果たしてこれがかつて地藏尊であったのかさえ区別しにくいものまである。しかし大きさはほぼそろっており、高さが三十〜五十センチくらい。数奇な運命をたどったお地藏さんたち。いつ、だれが作って祭ったのかははっきりとはしないが、今、再び文字通り「日の当たる場所」に戻ってきた。「お薬師さん」と呼ばれる地元住民の信仰も厚い薬師堂の脇に安置されたことで、お年寄りなどを中心に

お参りする人も多い。有志や婦人会員らの手によって、真新しいよだれかけも作られた。パワーショベルの音で長い眠りから覚めたお地藏さんたちも、思わぬ環境の変化に戸惑っているのかもしれない。(四方)



土中から掘り出され、薬師堂脇に祭られている地藏尊。前列の6体は以前から同所にあった6地藏



地藏尊が出土した付近。現在は工事が進み、コンクリートブロックに覆われている(写真はいずれも金河内町で)